

# わが同窓会

## —活動レポート—

### 23年のときを経て

野田 一江 (旧姓・宮嶋)  
昭和59年卒

昭和59年卒業生は、2006年12月29日(土)、岐阜市内で学年同窓会を開催しました。

案内が僅か二ヶ月前の配信

ということもあり、どれだけの仲間が集まってくれるのだろうかと心配しましたが、二十三年ぶり初めての同窓会ということもあり、七十六名も



の同級生が集ってくれました。開催に尽力をいただいた幹事さんたちの呼びかけで、年賀状やプチ同窓会の開催、職場への連絡などを通して、59年卒の本当にかくさんの人たちが関わって今回の同窓会を成功に導いてくれました。

会場では、二十三年前の十八歳にタイムスリップしたような再会を喜び合う黄色い声が飛び交い、予定をしていた二時間を大幅に超過した時間があったという間に過ぎ去りました。音信不通になってしまっていた友人たちの連絡先をメモする人や、携帯・メールのアドレスを交換する人、男性は名刺交換の風景も会場中

### 瑞浪 企画

酒向 和子 (旧姓・堀)  
昭和49年卒

で見ることができました。当日は参加することができなかった同窓生も、多くの人がメッセージを寄せてくれ、その一枚一枚が集まった仲間は歓声を上げ、一層会場の雰囲気をも二十三年前に引き戻してくれました。

また、6月10日に開催予定の第二回学年同窓会に向けて、参加者全員がビデオメッセージも残しました。今回は参加することができなかった人たちも、6月の同窓会は予定を今から空けてくれていて人が多いようで、第二回はもっと素敵な再会のドラマがあるのではと、今からとっても楽しみです。



私たち49年卒は、普段からパソコンメールを活用しています。同級生の一人が管理人となってメーリングリストを作成してくれたのが始まりで、現在その登録数は一五〇人強に上ります。お陰で、同



窓会を企画してもすぐに参加者が把握できるようになり、何かと理由をつけては集まっています。その中で、最近行われたのが瑞浪同窓会でした。やはり同級生のご好意で、ゴルフ場を貸し切りにしてもらい、一泊の集まりを企画したのです。

実は、私たちの学年には、ビートルズ楽曲を中心に演奏するバンドグループがありません。高校時代、メンバーの頭

文字を取ったAKT&Mという名のバンドがあったのですが、数年前にGKバンドと称して再結成され、新たにメンバーを加えて練習しているのです。その成果発表とゴルフの両方を楽しもうという意図で企画されたのですが、遠くは東京からも数名駆けつけてくれて、大いに盛り上がりました。その中の一人は、加藤君というプロのギタリストでしたが、金曜の夕方開始というハンデイにも拘わらず三十名近く集まったのは、彼の魅力によるものと言っても過言ではないでしょう。食事を終

た。まさに一九七〇年代の青春ポップス大合唱大会といった感じ。なんと終了したのは四時近くで、お陰で翌日のゴルフスタート時にまだ寝ている人もいる始末。「ホント、ようやるわ」というのが大方の感想でした。

えた後、コンサートを開始したのですが、加藤君の手助けのお陰でいつもよりグレードアップした演奏会となりました。その後、加藤君のギター独奏会、バンドアンコールと続き、一旦十一時半に締めをしました。翌日のゴルフに備えて寝た人たちもいました。が、約半数は会場に残り、加藤君とバンドリーダーの浅野君を流しのギタリスト状態にして、延々と歌いまくりまし

が、「とても五十代とは思えぬ活気が伝わってきた」「夢のようなひと時だった」「伝説の人と共演できて羨ましい」「思い切って参加して良かった」「みんな、生き生き

していた」などの感想が寄せられ、貴重な人生のページとなったことが実感できました。果てさて、次はどんな企画が出てくるのやら……。

## 49年卒首都圏同窓会

中村

誠

昭和49年卒



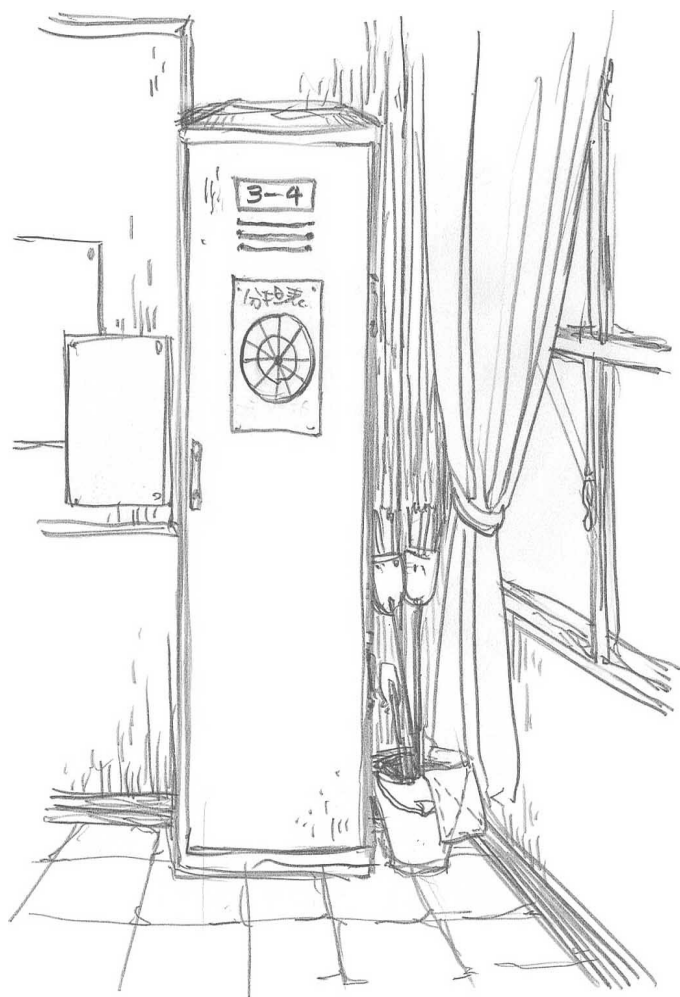
昭和49年卒の首都圏における「同窓会だより」というお題をいただきました。でも、ちょっと面はゆい。同窓会というほどの組織はない。出入り自由の開かれた集まり。

「同窓会」というより「飲み会」と呼んでほしい。実

際、とことん話して騒ぐ、座が乱れる、という集まりなのです。私の個人的な体験からすれば、同窓会は知らない人と出会う場です。同じクラス

だったが話もろくにしなかった人、こんなヤツいたなあという人、果ては、こんなのかっけ(失礼。お互い様ですよね)という人。そんな人たちと「再会」し、直ちに話に入っていけるのがすごい。五十歳すぎて、こんな関係、そうそうありません。それが「同窓会」という名の「飲み会」だと思えます。だから、一度来た人が来なくなることはない。あいつ最近見かけないかと誰かが言う、そのうち来る。

昭和49年卒首都圏同窓会の歴史をお知らせしましょう。初めは、ちよろちよると仲間内で飲んでいました。十四年くらい前だったか、誰が言う



ともなく大々的にやろうぜということになって(当時はもちろん女性ゼロ)、名簿を作って皆を集めるといふ「同窓会的組織の取り組み」を初めて行いました。飲み仲間全員が幹事でした。約四十名集まりました。突然、女性がたくさん出席してくれました(誰のおかげかはわかりませんが、その後ぜんぜん振るわず)。ここらが「黎明期」。

京に出てくる、誰それが転勤になる、誰それが見つかった(初めからそこにいるんです)などという話を種に、主に新宿あたりで飲んだくれていました。十名くらいはすぐ集まり、うだうだやって午前様になるといふ感じ。岐阜、名古屋方面からも、タイミングよく出張ができたと言いつつ参加してくれる人もいました。そんな社会的年齢になっていたのです。これが「雌

伏期」もしくは「潜伏期」。そのうち、女性もぼちぼち出てくるようになって、一年に一度は大々的に集まるようになりまして。やはり、女性が出てくると盛り上がる。一年に一度くらいはやろうよという感じで、集まると二十数名くらいでしたか。また、この年齢になるとマスコミに名が出る人も出てきて、じゃ、集まるかということも。もちろん、岐阜、名古屋方面からの

出席者も大切なメンバーでした。それでもというか、それだからというか、酒を飲んで午前様で騒ぐという伝統は変わりません。ここらが「発展期」。

そして、一昨年の岐高首都圏同窓会(これは、皆さんご存じの、上から下まで集まる伝統ある首都圏同窓会です)で、昭和39年卒の先輩と共に、幹事学年を仰せつかりました。我々の古参「会員」

で、普段は首都圏同窓会総会に行かないが今回だけは行くぞという御仁もおられて、昭和49年卒は、学年別出席者数で堂々第一位。これが「開花期」です。そのココロは、人数だけでなく、これをきっかけに女性が多数参加するようになったからです。

2006年の12月15日に

行した忘年会は三十名。例によって、酒を飲んで話し始めた。店を貸し切りにしたのですが、店主が、こんな同窓会は見たことがないと言っていました。老人になっても、こんなことやってるんだらうか(少なくとも私はやりたい)。同窓会は、旧知の知り合いの、ちまいました内輪の集まりではありません。そうあってはならないし、つまらない。だから、常に新しい血が必要だ。それは、49年卒に限ったことではないと思えます。どうか皆さん、この原稿を読んで、同窓会にご出席下さい。やみつきになること請け合いです。

### 39会

赤谷信之 昭和39年卒

「39会」は昭和39年卒の岐高同級生の集まりで「関東地区」と「岐阜地区」の二つがある。いずれも故安田秀士

君の呼び掛けで結成され、十五年余の月日を数える。それぞれ懇親の場を設けているほか、最近では両地区の交流も



行われるようになった。

岐阜地区の「39会」は年に数回集まって親交を深めてきたが、子育てが一段落したころ、「旅にでも行こうか」ということになった。平成6年5月、たまたま私が夏に転勤すると予想されていたため、それでは私の転勤先に取り敢えず行こうと意見がまとまった。以来、主として私の

転勤先を旅した。

私が転勤族でなくなったため、ここ数年は旅行中、あるいは懇親の場で「次回はどこへ」を決めるようになっていく。当然といえば当然だが、ここでは女性陣の意見が尊重されている。その記念すべき第一回の旅行は平成6年8月の北海道・道央・道北の観光地巡り、ゴ

ルフのほか、自衛隊のヘリコプター・戦車試乗、天幕露宮など盛りだくさんの内容で、十七名が参加した。以来本年まで、次のような旅を続け親交を深めている。

▽冬の北海道(札幌雪祭り、丸駒温泉)▽飛騨(奥飛騨温泉郷と新穂高ロープウェイ、高山▽蒲郡(クルーザーの旅・日間賀島)▽尾瀬(湿原散策、老神温泉)▽甲斐路(日本航空学園研修、日本そば)▽九州(ハウステンボス、佐世保米海軍将校クラブ、イージス艦、吉野ヶ里、柳川、博多)▽御殿場と箱根(地ビール、桜、戦車、芦ノ湖)▽伊豆(柿田川、ゴルフ、中・南・西伊豆観光)▽台湾(台北・基隆観光、台湾料理)▽屋久島(紀元杉、西部林道、千尋の滝)。

卒業以来四十年余、旅を共にした仲間であの世に旅立った同級生もいる。卒業以来、顔を会わせていない同級生も多い。会うたびにほっとし、肩の力を抜いて付き合える友は人生における宝であるとし

みじみ感じる今日このごろ、体と気力の続く限り「39会旅行」は続けていきたいと思う。

高校時代劣等生であった私

は、卒業後も含め岐高の良さあまり認識していなかったが、今改めて岐高で学ばせてもらって良かったとしみじみ感じている。

## 岐高(東京) 39会

井口道郎 昭和39年卒

我が学年の首都圏同期会は故安田秀士さん(弁護士)が幹事をして集まったのが最初。何年前か定かでないほどの話で、下町の老舗らしい料亭ですき焼きをつついた覚えがある。転勤がつきものサラリーマンであった私は、

友人と軽い気持ちで「総会に出てみようか」となったのは2002年7月。同期の参加者は僅か四名だった。知人も少なく、大先輩から中年までの二百名を超える集まりに場違いな雰囲気を感じ、翌年は参加しなかった。

同窓会で旧交を温める余裕も関心も無く、長い間お付き合いが途絶えていた。安田さんが若くしてガンで亡くなった後は、豊川東次郎さん(公認会計士)が幹事をされたが、体調を崩され、首都圏の同窓会に空白期間が生じたらしい。無関心派だった私が今、首都圏地区の学年幹事をやっている。岐高高校(首都圏在住)同窓会から案内が来て、久しぶりに連絡を取り合った

しかし、「幹事学年というルールが有り、間もなく我が学年がそれにあたる」という事実を知ってしまった。これが気になって、幹事年の前年の04年総会に、のこのこ出かけた。ところが、39年卒の学年幹事が不在になっていた。役員某女史から深夜の電話で「39年卒の学年幹事を何とかしてほしい」と要請を受けたのは、総会の直前。若干の人に打診したものの、色



よい返事はある筈も無く、このような役目は押し付けあいになりがちで、他人を説得するより自分でやる方が簡単だと、私が学年幹事を買って出ることになった。この年も同期の参加者は五名で、翌年が当番学年というのに、お先真っ暗状態だった。

当番学年前年の総会が終わると、役員主導による会誌制作、イベントのアイデア出し、動員計画と会費の徴収もれ対策、案内状の発送など年間スケジュールに巻き込まれた。一方で、同期39年卒の動員対策に頭を悩ませた。まずは、準備のための同期会の開

催。総会半年前の1月に開催したが、僅か十四名の参加者に終わった。しかし、この時の参加者が核となって徐々に輪が広がり、7月の本番は二十六名参加にこぎつけ、当番学年として最低限の義務を果たせた。副幹事をしてくれた花田裕子さん（旧姓宮川）、牧野民江さん（旧姓尾関）のサポートに助けられた。

「伝統ある同窓会を我が学年が当番の時に途切れさせることは出来ない。次の当番学年へのバトンリレーだけは、最低限果たさなければ」という心境だった。

正直なところ、総会は学年間の交流が乏しく、顔見知りの少ない人にとってはあまり面白いものではないと思う。校長先生の話を聞いたり、懐かしい校歌を歌ったりしながら、岐阜という狭い地域のエリア意識を満足させ確認する会というのは言い過ぎだろうか。「イベントの魅力は参加者の増減に影響しているだろうか」「人集めに汲々とするのはよした方が良いのでは

ないか」などとは言いがら、これと言って妙案があるわけではないので、私自身は

学年幹事という立場上、当面参加することになると思う。

05年の総会后、二次会の同期会で、「岐阜（東京）39会は、毎年11月開催の定例会として再スタートさせる」と決めた。会は05年11月、二十一名参加、06年11月、二十九名参加と順調に推移している。

幹事として心掛けていることは、肩の力を抜き我慢強くあること、である。皆さん全員が同窓会に重きを置くなんてありえないと思うと「何が何でも来てくれ」というより「参加したくなったら参加く

ださい」「たまには出てみないか」で良いと思う。

とは言え、度重なる案内に返信なしが続くと、「せめて一言でいいから返信してくるのが社会人の常識ではないか」という気にもなる。先輩学年から、連絡の欲しい人だけに絞って同期会の案内をしている、と伺ったのをヒントに、来年から二年連続返信なしの人には、案内を出さないことにした。一部の人からは

連絡不要の返信ももらっている。一方で、参加しなくなった人をいつでも温かく迎える工夫も必要だ。

「参加しなくなった時に参加できる『集う場』を設定する」に努力したい。

## 在京（首都圏）岐阜高校同窓会

宮本 悠美子 昭和34年卒

平成18年度の在京（首都圏）岐阜高校同窓会総会で第八代会長に就任致しました。

在京同窓会は昭和12年、「在京浜岐中同窓会」として井上孝哉（明治23年卒）大先

輩により創設されました。その後、戦後の学制改革で「在京岐阜高校同窓会」となり、さらに「在京（首都圏）岐阜高校同窓会」と変遷、拡大

して、今年七十周年を迎えま



す。永年の先輩方のご苦労、ご努力の賜物であると深く感謝致しております。

本会の会則第一条に「会員相互の交誼を厚くすることを目的とする」とあります。先輩から後輩へと受け継がれてきた永い歴史と伝統に対し、同期の皆様が連帯感をより密にするよう総会の当番学年制度を平成12年度（昭和34年、44年卒）から導入致しました。六十歳を迎える学年が正、五十歳を迎える学年が副として当番をしております。その二学年と役員（会長・副会長・理事）が協力して企画運営から会報の発行まで責任を持って担当しております。在京同窓生約五千名、そのうち二千八百名の皆様に総会通知を発送、八百数十名の方に年会費（千円）を納入（12

年度から）していただいております。

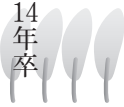
昨年の総会には二百五十八名の出席をいただき、おかげさまで順調に発展しております。

今年も当番学年（41年、51年卒）の皆様が頑張っております。総会開催日時は7月8日（日）午前11時から午後2時半、場所はANAインターコンチネンタル東京で、会費は九千円。懇親会のゲストは

## 総会だより

藍水くらぶ 村

瀬 喜代子 昭和14年卒



岐阜県立岐阜高等女学校の誇り高き伝統と歴史を引き継ぐ「藍水くらぶ」の第四十八回総会は、平成18年10月4日、岐阜市長良川畔の岐阜都ホテルを会場に、今回も盛大に催されました。

一堂に会した才媛才女は実に二百六十名。最高九十二歳から最も若い（ノ）会員で七十三歳ですから超高齢化社会。

でも皆さん、とてもお元

毎年、岐阜に関係ある方をお招きしており、今年も伊藤君子さん（ジャズシンガー）の出演が決定しております。

今年も楽しい総会になります。皆様には各学年幹事さんからお声をかけていきたいと思っております。ご出席いただけましたら大変嬉しく思います。どうぞよろしくお願ひ致します。

気。

遠くは千葉、東京から馳せ参じ、星や董に思いを託した純真無垢な乙女のあの頃に思いを馳せ、旧交を温めました。

総会は、物故者追悼の黙祷から始まり、創立記念日の歌「姫小松」を合唱の後、「ご長寿お目出度うございます」とお呼びかけして、八十五歳になられた会員に毎年恒例の「御祝記念品の贈呈」を行い

ました。今回の対象者は十八名でした。

戦中戦後の、あの混沌、貧困の時代を乗り越え、今日の日を迎えることのできた幸せを噛み締めて、これからも「知性とパワー」あふれる日々を共に過ごし、楽しく輝いていきたいものです。

懇親会に移って会食を楽しみ、共有する思い出に花が咲き、和やかな空気に包まれる余興のスタートは、会員有志の「雲雀ヶ丘合唱団」二十五名による岐阜高女思い出のナンバーで「紅葉」「美しき碧きドナウ」「ウィーンの森の物語」。美声の四部合唱に会



場は盛り上がりました。

続いている庄巻は七十三歳から八十六歳二十名のフォークダンス。「おおシャンゼリゼ」「四季の歌」「懐かしのヴァージニアミクスサー」。ビバ宝塚！ 男装の麗人、可憐な娘役、華やかないでたちはみんな手作りです。そのパフォーマンスに笑いの渦、そして拍手喝采。

フィナーレは岐高女校歌、「手に手をつないで」を出席者全員で合唱してハッピーエンド。毎年出席者が減らない不思議な（でも嬉しい）総会は、来年の再会を約し、楽しい秋の一日の幕を閉じました。

友の手の 温もりほのかに伝わりて ステップ踏めば心華やぐ 足立 美代

次の藍水くらぶ総会は平成19年10月3日。会場は岐阜都ホテルです。どうぞ各学年でお誘い合わせ、ぜひご出席ください。岐阜駅、柳ヶ瀬方面へお迎えバスを用意致します。

岐阜市長も務めた昭和19年卒の浅野勇さんが平成19年1月23日逝去されました。本年度の総会開催にあたって美代子夫人から「主人は毎年の同窓会に出席することを大変楽しみにしていました」との手紙が同窓会総会運営委員会に寄せられ、浅野さんが生前、メモ帳に記していた「答辞」が同封されていました。

## 「答辞」

浅野 勇 昭和19年卒

今まで大勢の人を送らせてもらいましたが、いよいよ自分の番が来たようです。私の最期にあたってはみなさまから誠に丁寧な弔辞をいただいておりますので、私も知らん顔では申し訳ないと想い一言御礼を答辞として申させていただきます。

今私はこの世を去るにあたり改めて俺くらい幸福な人生を送った者は無いだろう、日本一幸福者だったと思っております。校長、教

育長、しまいには市長とい

った誰にでもできないことをやらせてもらった喜びは勿論ですが、それ以上に幸せだったのは、周囲の人すべてから可愛がられて温かく接してもらえたことです。先輩、恩師、友人、後輩、教え子等、皆にタネさタネさと親しまれました。また、美代子と結婚したことです。美代子にとって、こんななまかわな身勝手な男と一緒にあって変な一生ではなかったかと思

ます。私にとってはこの上もないかけがえのない家の人でした。三人の子供達も私の悪い所は似ず、好い所だけ似てくれて心温かに育ってくれました。これも美代子のしつげだと思っております。私の姉弟も少なくなりましたが、私の所を在所と思っただけにつけて寄り付けてくれます。こういう温かい環境の中で生かされてこれたことを私は、私

ほど果報者はないと思っております。その上、皆様から戴いたお助けに思いをいたす時、そのままお返しもせず、ハイさようならはいかにも身勝手すぎますが、これも、タネさ流とご容赦ください。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

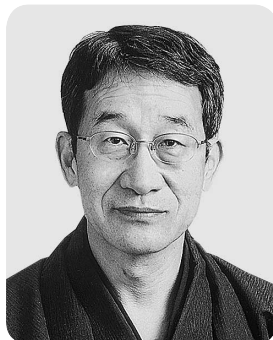


市長時代に夫婦で旅したスペインの古城で

# 恩師からの便り

## 歌につながる

大野鶴士先生  
(本名・国士)  
(昭和52〜59年)



故あって四十代後半で退職し、現在は俳句・連句に関わることを生業としています。国語教師であったからではありませんが、教職に就く以前から関心があり、縁のある世界だったのです。

岐阜高校には昭和52年から59年春までの七年間の在職でした。もっとも生徒として三年間通学していましたから、合計すると十年間となり、人の半生としてみるとけっこう短かい歳月ではありません。伊吹嶺の雪光る日の母校かな歌につながる母校です。い

ったい何回校歌を歌ったのでしようか。「国家の為に明け暮れ学ぶ」、生徒の頃必死になつて勉強したわけでもないのでも少し声を落として歌っていたのですが、やはり教員の頃もちょっと複雑な思いを抱きながら歌っていました。

在職中のおもなことから昭和53年の春の選抜野球大会で野球部が甲子園に出場したこと、昭和54年から国公立大学共通一次学力試験が始まったこと、昭和58年の創立百周年記念式の挙行などがあるのですが、そうしたことに、まったく意味も脈絡もなくあまたの泡沫のような瑣事が浮かんでくるのです。しかも、作品としては未熟ながら当時作った俳句をきっかけとしてです。岐高に勤めるようになった頃から、毎日俳句を作るようになったのです。補習終へ戻る廊下の日脚伸ばす 焼岳や炎帯荒き繋ぐかひ 語気荒く叱りて悔ゆる秋の雨 軋りゆく路面電車や鱗雲 「補習」を「補習」、「授業」を「授業」と書く生徒が

いました。夏の林間学舎の四日間のこと。なぜか必要以上に強く叱ることがありました。新岐阜と学校の間を毎日歩いていましたが、当時まだ走っていた路面電車の中から生徒が手を振ってくれたこと。記憶の断面がきらきら輝いて宙を舞っています。俳句に深く関わるきっかけを作ってくれた場、それが岐阜高校なのでした。

## もう一つの

### 甲子園

服部岩夫先生  
(昭和51〜61年)



甲子園への臨時の吹奏楽応援団を編成し、多くの生徒の皆さんと応援に行きました。昭和53年3月の第五〇回記

念選抜大会です。

初戦は小雨の中、吉備高校に逆転勝ちをしましたが、二回戦は残念ながら桐生高校に負けました。

百有余年の伝統を誇る和太鼓による応援団がありました。が吹奏楽部はなく、出場が決まると同時に募集をかけ、楽器や楽譜を調達し、校歌や第一応援歌、コンバットマーチから行進曲まで、甲子園のアルプススタンドで立派に応援をしました。

その間二か月弱でしたが岐阜高生の「志を立てた時の無限の力」や、「集中力の素晴らしいさ」に感動、感激しました。

たまたま初戦相手の吉備高校にも吹奏楽部がなく、近くの女子高の友情出演により吹奏楽応援団を結成してました。試合のあった夜にはNHKが「もう一つの甲子園」と題して「応援合戦」をテレビで取り上げてくれました。

残念ながら当時はビデオなるものが普及しておらず、手元に記録は残っていません。



私は大太鼓をたたいていました。三十路に成った年です。

岐阜高校には昭和51年から十年間勤務しましたが、甲子園についてはもう一度夢を見ることができました。昭和58年夏のことです。

県大会で持ち前の集中力と粘り強さプラス「運」にも恵まれ、あれよあれよとベスト4、準決勝と勝ち進み決勝戦を迎えました。補習授業よりも応援を最優先とし、学校全体で燃えました。残念ながら甲子園出場は果たせませんでした。学校全体が一つの夢に向かって一丸となった瞬間でした。

この時、私はエースピッチャーの担任で「もしかしたらまた甲子園で吹奏楽が…」と別の楽しい夢を見ることができました。

臨時の吹奏楽部は、二回戦敗退後解散しましたが、文化祭や体育大会、野球の応援には何処からか有志が集まり演奏活動を続けていました。

幸い長年の直向きな活動が

認められ、昭和61年に「吹奏楽部」が誕生しました。現在も立派に活躍中です。

## クラーク先生の言葉

高橋伸郎先生  
(昭和44〜52年)



先日、行きつけの整体院で、ある人から「札幌農学校の教頭であったクラーク先生の言った言葉『青年よ大志を抱け』というのに続きがあるそうですね」と尋ねられた。

何でもテレビに『Dr.コトー』というドラマがあって、その中で出てきたのだそうである。私もこのクラーク博士の言葉に続きがあることは知っていた。『ライク・ジス・オールドマン』という言葉が。

この言葉について、本当に言われた言葉かどうか疑問視する向きもあるようだが、学

ところが、その人の言うには「金のためでもなく、我欲のためでもなく……」という言葉が続くというのである。恥ずかしながら、不明にして私はその言葉については知らなかった。そこで、いろいろな文献に当たってみた。

確かに「金のためでもなく」云々というのはある。それは『青年よ大志をもて。それは金銭や我欲のためにはなく、また人呼んで名声という空しいもののためであってはならない。人間として当然そなえていなければならぬあらゆることを成しとげるために大志をもて』というのだそうである。その本によると、このことが広まったのは、昭和39年3月の朝日新聞の『天声人語』欄によるのだそうである。そして、私は寡聞にして知らなかったが、高校や中学の教科書の中にこの言葉を載せたものもあるとのことである。

二度あることは三度ある、または三度目の正直と云って、ようやくこじんまりとした家に、2006年3月引越しました。陽の入らぬ家には

校を去るに当たって、一七〇八の多感な少年たちに対して述べた言葉としては感銘深い内容を持っている。と同時に、私が知っていた『「I'm this old man」』という言葉

にも、深い意味があるように思う。それは、クラーク先生が農学校を去った時は五十一歳であったそうだが、わずか八ヶ月という短い在任であったにもかかわらず、後に、新渡戸稲造や内村鑑三という優れた人材を輩出したことをあわせ考えたとき、『諸君、この老人のごとくあなた方も大志を持ちなさい』と言ったとされるのも肯けるのである。

## 傘寿を迎えて

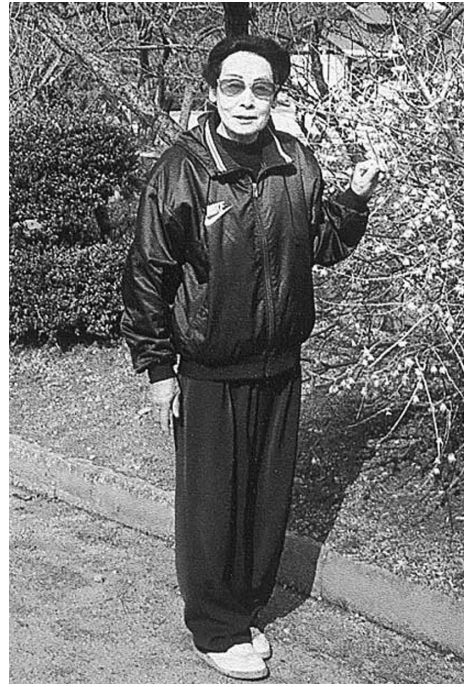
筑間房子先生  
(昭和43〜62年)

医者が入ると昔から言われておりますが、今度の家は南向きで、太陽の温もりをしみじみ感じ微笑みが自然に湧いてきます。

長年やってきたゲートボールもひとまず卒業し、ただ今日はグラウンドゴルフを週一回、皆さんとワイワイガヤガヤと楽しんでいきます。また、伊藤天游先生の許、書を習っておりです。書く喜びと楽しみ、いや書ける喜びと楽しみを存分に味わって、同輩と仲良く元気に筆を走らせ、納得のいく作品が出来上がると本当に感激します。今日の事は今日、明日という日はないと、目的意識を持ってプラス思考で頑張っております。人間はある年齢にならないと有難さや思いやりの心が掴めません。私も昨年11月に傘寿になり、教え子に誘われてホテル花水木へ一泊二日で寛ぎに行きました。その時プレゼントされた歌を紹介します。

①祝傘寿 恩師の温み今もなお

②紅葉する庭を廻りて師と



並び 教え子四人茶室に入る

③湯のたぎる 松風の音聞きながら 傘寿の恩師と薄茶をすす

④八本のローソクを消す師の手元が微かに震え灯も揺れている

感謝感激、一生の思い出を頂きました。

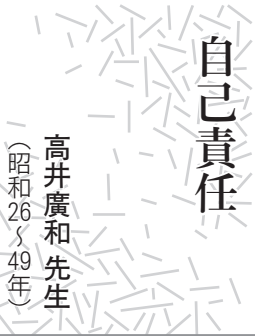
瀬戸内寂聴さんの講話の中に、誰にでも優しく自然と顔が綻びるといふ意味の私の好きな言葉「和顔愛語」がありますが、このような気持ちで一日一日を過ごせたら、いじめ、自殺とも無縁でしょう。

十九年間岐阜高校で教鞭を執ることができて最高でした。先生方の力強い指導の下



での生徒の皆さんの直向な努力、百折不撓の精神、一致団結した運動会、生徒さんは私の子供です。誰よりも多い宝物を頂戴し有難うございました。岐高万歳！ 校庭の一本一草が懐かしい。前向きで生きよう。

### 自己責任



高井廣和先生  
(昭和26〜49年)

同窓会総会には毎年出席、

平成3年の会報の創刊号から

平成18年会報までに七回も投稿し、主として学校の行事や

稿し、主として学校の行事や

生徒の様子を述べました。今回は辞退をお願いしました。私が、私の日常生活を、と懇願されました。私は七十一歳まで学校に勤め、その後フリーになる。健康は自己責任と心得て、決して体力をつけようとは考えず、体の衰えを徐々になるようにと心掛けていて決して頑張らない。毎日の日課として、ウォーキングとプール通いをしています。

朝六時起床、七時過ぎまで新聞二紙に目を通し、雨降り以外、約五十分ウォーキング。正しい姿勢で、正常歩・大股歩き・腿上げ歩き・後向き歩きをし、時に「金華城頭月冴えて……」と口ずさむ。小公園の鉄棒で腕力持続の軽い運動、それに柔軟体操をする。

午後一時半から約一時間半

プールで過ごす。プールでのノルマ (一)水中ウォークをしてから、クロール・平泳ぎ・背泳ぎで三百米泳ぐ。(二)ジャグジー・ジェットバスで「ふくらはぎ」と腰に打たせ湯をしながら、両手の指を組んで強く握りしめ・ゆるめたりして血行をよくし、同時に首を大きく十分に前後左右に廻し・更に頭を大きく廻す。

(三)ジャグジー・アクアゾーンで左右の足の裏の「ツボ」五ヶ所をゆっくり十回ずつ押す。これは内臓の神経細胞に刺激を与える。(四)プールを出て、体を拭いてから、左右の足先の内側の「くるぶし」の下の動脈を両手の親指で五秒間押さえ・離すことを十回、血行を促す。

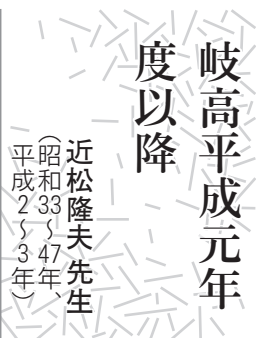
以上は、自分で有効だと信じて行っている。

### (追記)

しかし、記憶力・気力・体力の衰えは自然現象でしょう。毎年大勢の方から頂く年賀状で大きな活力を頂いていました。この二〜三年、私は特に忘れっぽくなり、漢

字・地名・往時の事等々、心細い思いです。その上傘寿を過ぎてから、六百余通の賀状を用意することが、とても大変なことになりました。誠に心ばかりですが、今後年始のご挨拶を失礼させて頂くことをお許し下さいますようお願いいたします。

### 岐高平成元年 度以降



近松隆夫先生  
(昭和33〜47年、  
平成2〜3年)



ご縁があって、平成2年に再び岐阜高校に教頭として着任しました。その在勤期間中に体験した思い出の一端を辿ってみました。

平成元年度、竹林順祐校長が着任されてからの二カ年

は、消費税導入、統一ドイツの誕生、湾岸戦争の勃発や、従来の共通一次試験に代わって「大学入試センター試験」が始まるなど、激変の様相を呈した時期であった。

平成元年度。環境整備については、本館の窓枠改修・前庭南側整備工事が行われた。

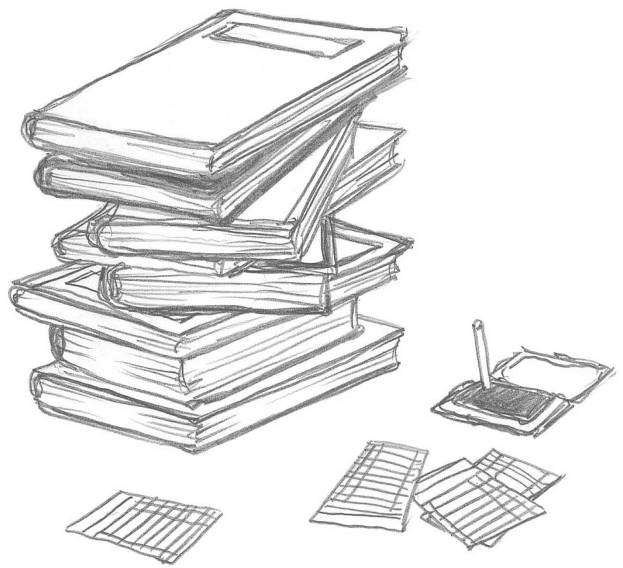
一方では、林間学舎の雨漏り防止工事など二カ年にわたって行われた。さらに、平成3年2月には「岡田育英会」を発足させ、この年より経済的に困難な進学者に奨学金が給付されるようになった。さらにこの年、従来の「修学旅行」に代わり「スキー研修」が初めて実施された(三泊四日。一年生五百九名参加)。

平成3年度。大宮義章校長が着任された。学校長は、二十一世紀に向けて、幾多の問題に對峙し、リーダーとして活躍できる生徒に主眼を置いた学校運営に努められた。職員には「我が一期一会を大切に、教師自身が学ばんとする気概に満ちているとき、生徒も学ばんとする意欲が湧く

ものである」と説かれた。

平成3年度岐阜高校同窓会は、若返りと活性化を図るための新しい試みとして、昭和23年卒、33年卒、43年卒の3並び学年が幹事となり、企画・運営に献身的な骨折りをいただいた。その結果、総会出席者数は一気に六百名を超す「新世紀大同窓会」となった。

平成4年度。「全国高校生ホームプロジェクトコンクール」で、本校の生徒、河合・宮崎・浅野と三年連続最優秀



賞を獲得する。教育長より

「激励と感謝のことは」をいただいた。平成3年度、4年度と二年連続して「学校環境衛生活動優良校」として表彰された。「青少年読書感想文全国コンクール」では、一年国江有希は県知事賞を、また、一年杉山悦子は毎日新聞社賞を受ける。さらに国江の作品は全国学校図書館協議会長賞をも受賞した。

平成4年度の岐高同窓会総会は、テーマを「出会いと語らいの場」として、イベント

は24卒が「岐高校歌」のテープを作成、34卒が箏曲の調べで日本の伝統音楽を演奏、44卒がロックバンド演奏と趣向を凝らした。総会出席者数は八百名を超す嘗てない大盛裡に終わる。

平成5年3月1日、卒業証書授与式。皆勤賞受賞者は前年よりさらに多く、九十名となる。皆、健康で基本的な生活習慣が確立している人たちで、本当にすばらしいことです。

## 38年という年

柳瀬道夫先生  
(昭和29〜45年)



岐阜高校を去ってから、数えてみればもう三十六年も経

つのに、有り難いことにずっと縁が切れないでいます。

昭和29年に赴任して、46年に転勤となるまでに、七回卒業学年を受け持ちました。お陰で毎年のように何れかの学年同窓会にお招きを頂きま

す。去年私は「万葉集全二十巻を書く・展」という展覧会を行いました。卒業生をはじめ大勢の方が見に来てくださって「教師冥利」を感じました。

今年の幹事学年の38年度、この昭和38年は「こんにちは赤ちゃん」「上を向いて歩こう」など明るい希望の歌がはやりしましたが、私にとっても希望が訪れた年でした。

私は、32年、最初に持ち上がった三年生の担任の時に結婚し、35年、二回目の三年生の担任の時、早産で子を亡くし、三回目の持ち上がりとなった38年夏に男の子が生まれました。早流産を重ねていましたので、この38年は特別に嬉しい夏でした。その息子が今年四十四歳になります。

この年度の三ノ八は男女クラスで、とてもよい雰囲気クラスだったので印象深く、ようやく親になれた喜びとともに思い出が重なります。

38年は子供の生年であるとともに、私の母の生年でもあります。今年一〇二歳、まだ健在でいてくれますが、こちらは明治の38年です。

兼好は『徒然草』の中で、「命長ければ辱多し」と言い「四十ぢにたらぬほどにて死なんこそ、めやすかるべけれ」と続けました。「四十ぢ」は今なら「八十ぢ」と言うべきところでしょうか。

兼好はその理由について「かたちを恥づる心もなく、人に出でまじらはん事を思ひ」と指摘します。

足に痛みを持つ私は外出の際、医者に勧められて杖を持ち歩きます。その私が「八十ぢ」に近くなって、若い時に縁の出来た人たちの前に、老残の身を曝すことは如何なものかと思うようになりました。

母のように一〇〇年も生き

てしまえば、兼好も何も言いますまいが、まだまだ達観出来ず中途半端な自分を感じています。

## 還暦の

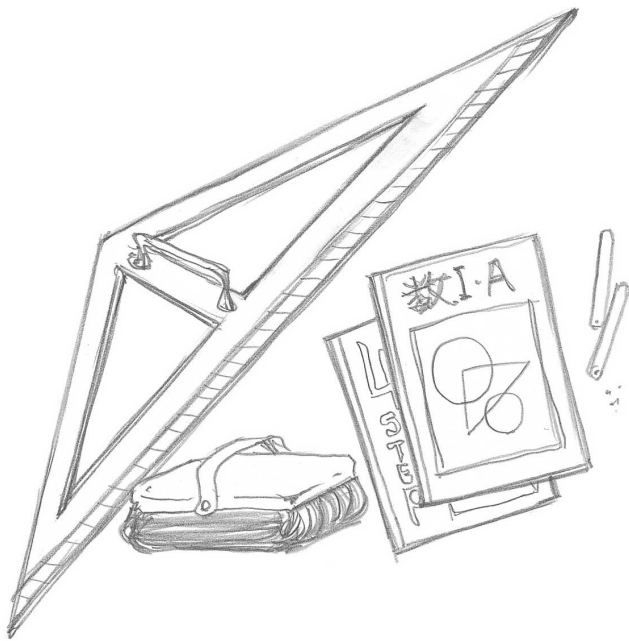
# L・H・R

吉田 豊先生  
(昭和23〜39年)



昭和39年の卒業生にはいくつかのグループがあって、それぞれ懇親を深めているようだ。二十名ほどの「YY39会」もその一つで、同級の平工雄司さんが社長に就任された「犬山カンツリー倶楽部」でゴルフを楽しんでいる。ぼくもその一員であるが、プレー後のレストランでの放談が楽しい。

ある日。



**Aさん** 宗教の歴史をきれいごとだけでみてはいけません。かつてキリスト教徒が集した十字軍は、エルサレム奪回のためイスラム教徒を殺すことを神の意志とした。日本の鎮守、僧兵も自分たちが勝つために相手を殺そうとした。現在行われている戦争も聖書片手だ。本当の宗教を問うべきだ。

**Bさん** 外国に旅して膚で感ずることは、それぞれの

国に一つだけの宗教があつて国民はそれを絶対としてあがめていることだ。日本には神様があまりに多く、逆に宗教がないにひとしい。このほうが幸せかも。

**Cさん** いじめが陰湿だ。また、いじめられた者が死を選ぶのは、いじめたものに対する強烈な自己主張だ。命を絶つことは勇気がいる。その勇気で生きぬいてほしい。

**Dさん** テレビのお笑い番組の中にいじめ的言動があつて、子供たちがそれをまねるといふ批判がある。まねるというならいじめられてもギャグで返すポケ役の強さもまねてほしい。

かつて伊深の佐野えんねさんがぼくに、「ドイツから見ると日本にはどこの国にもまさる温かい家族の絆がある」と言った。日本はもうそういう国には戻らないかも。

**Eさん** ここで話しあっているような内容は、教育改革を云々する人たちからはまったく聞こえてこない。

**Cさん** 多くのクラスは、卒業の時全員が「それぞれの思い」をテープに吹き込んだ。封印をして先生にあずけたが先日ぼくに渡された。四十年を過ぎた今年、それを聞くのが楽しみだ。でも死んだ友の声もあるなあ。

還暦を迎えた、しかし若者たちのロングホームルームは延々と続く。

# 岐阜高校校舎の改築計画

## いよいよ新校舎実施設計へ

### 岐阜高校校舎建築部

伝統ある本校は、多くの生徒を育み、我が国及び郷土が誇る有為な人材を輩出してきました。しかしながら、その校舎は昭和三十一年から四十八年にかけて建設されたものであり、老朽化が進んでいます。

耐震性能については、平成十七年度と十八年度に行われた補強工事によって当面は確保されました。そしてこのたび、本館棟、北舎・理科棟、武道場、体育館の改築に加えて南舎(華陽校舎)の大規模改造の計画が本格化しました。

具体的には、平成十八年度に行われた本校校舎等改築のための設計プロポーザルコンペを受けて同年度内に基本設計を行い、それをもとに十九

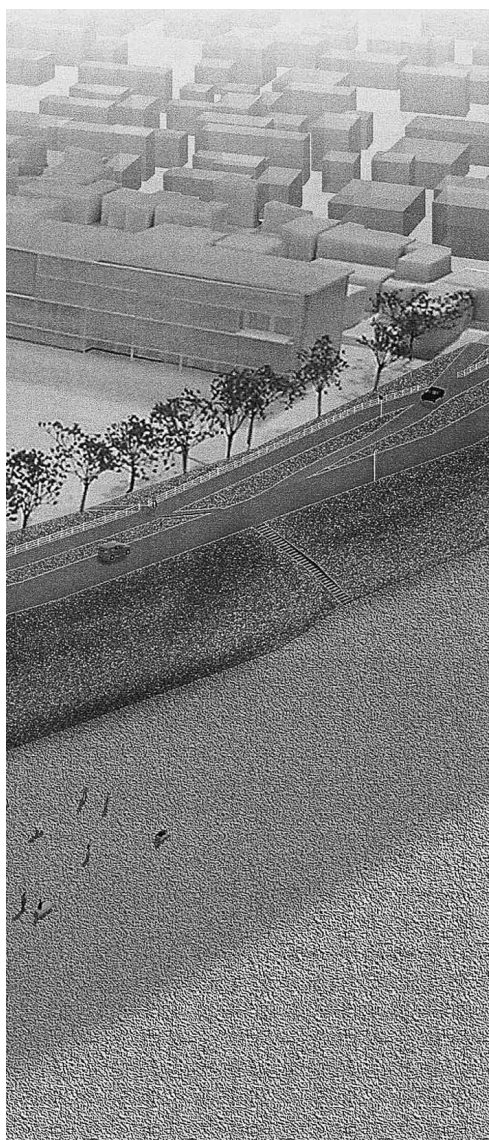
年度中に実施設計を終えて、二十年度に着工の運びとなります。校内では、新たな分掌として校舎建築部ができ、期間中の各種調整を行う体制ができました。

基本設計に活かされた新校舎のランドデザインとしては、創造性と交流性に配慮した空間構成として、図書館やマルチメディア関連諸室を含む「メディア・アベニュー」が特徴的で、校舎のエントランスであり、生徒の憩いの場、そして卒業生にとって心の拠り所となる森と緑地としての並木道(プロムナード)も設けられます。さらには、ユニバーサルデザインを取り入れ、省エネルギー・省資源に配慮するとともに、仮設校舎

を設けることなく学校運営に必要な機能を有したままで建て替えられる計画が採用されました。

教室棟は学年ごとの別棟で、二階のメディア・アベニューでつながります。南舎は、現在の躯体だけを残して外壁及び内装を刷新し、理科、芸術科、家庭科の各教室ができ、高等学校PTA連合会、校長協会の事務局も入居します。

総工費は約三十九億円で、二十一年度に南舎、二十二年度に管理棟と校舎棟、二十三年度に体育館・武道場がそれぞれ供用開始予定となっています。



#### 工事は来年度から24年度

平成18年度	設計プロポーザルコンペ・基本設計
平成19年度	実施設計
平成20年度	着工
平成21年度	南舎供用開始
平成22年度	管理棟・校舎棟供用開始
平成23年度	体育館・武道場供用開始
平成24年度	全面的に供用開始

南舎(華陽校舎)は全面改修して活用

総工費約39億円

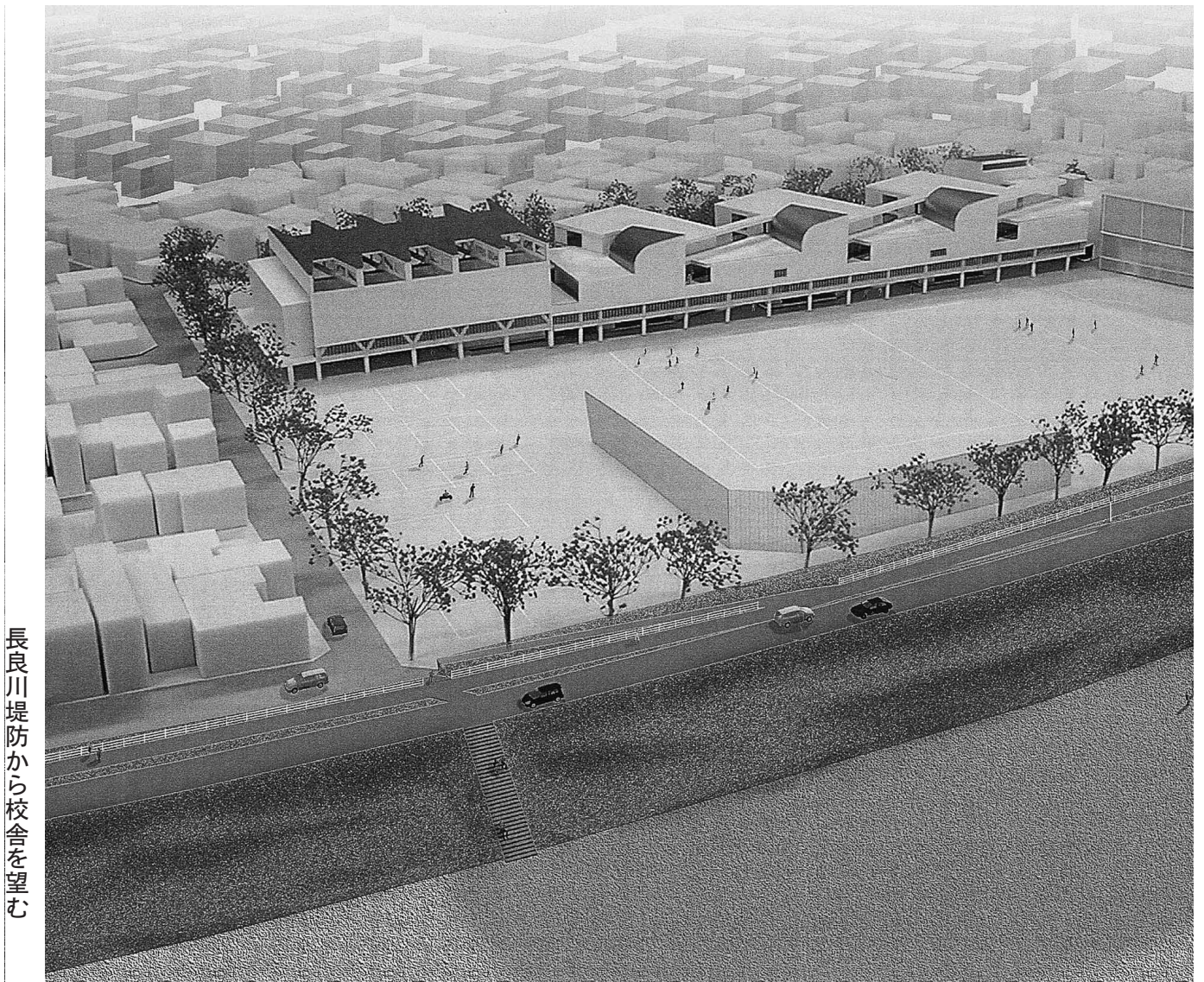
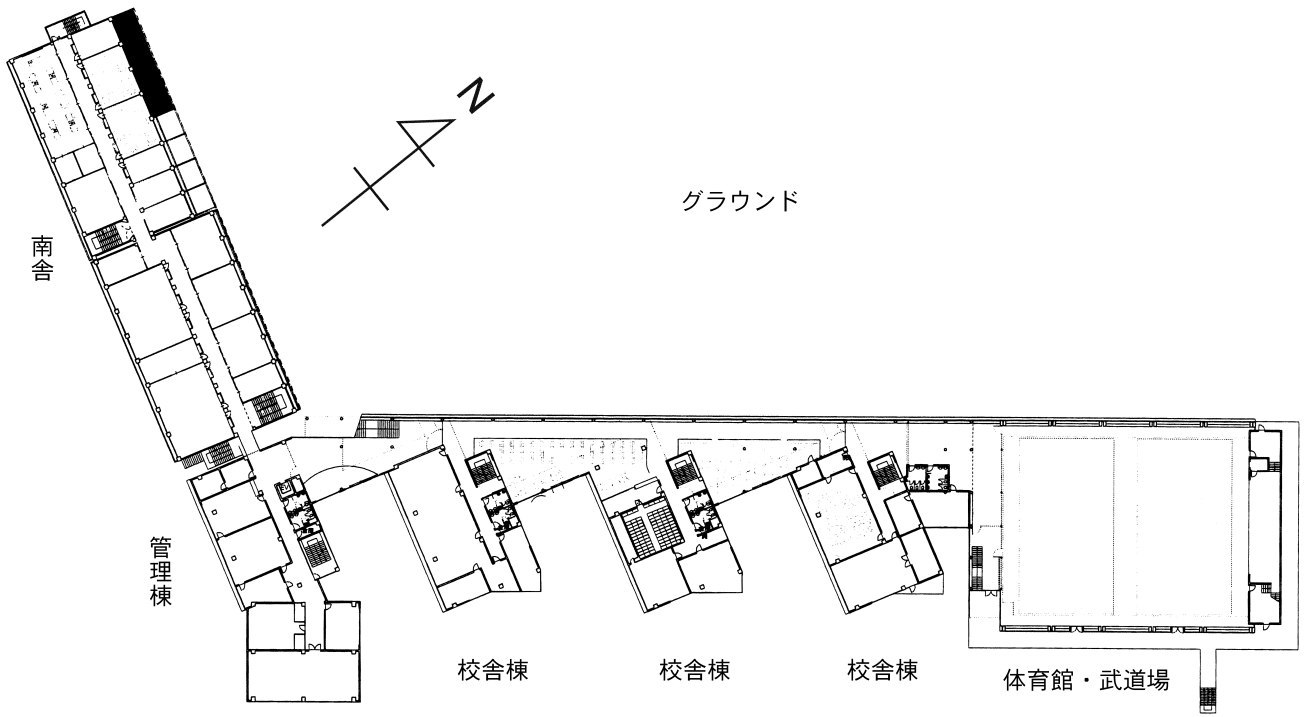
仮設校舎は設けず

校舎棟は学年ごとの別棟

建物をつなぐ共用空間をメディア・アベニューとして整備

憩いの場となる並木道を設置

省エネルギー・省資源に配慮



# 岐高はいま

## 生徒数・クラス編成

平成十九年度の生徒数は1082人で、一年生が362人（男230・女132）、二生が361人（男214・女147）、三年生が359人（男206・女153）。各学年とも9クラス編成で、かつてのような男子だけのクラスはない。一年生の芸術科目の選択は書道か音楽か美術。

## 部活動

部活動は体育系が14、文科系が13、局が2の計29ある。

体育系Ⅱ硬式野球、陸上競技、サッカー、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、水泳競技、卓球、バドミントン、柔道、剣道、軟式野球、テニス、ハンドボール

文科系Ⅱ美術、書道、演劇、音楽、文芸、茶華道、自然科学、ES

S・デイベート、調理、写真、囲碁・将棋、吹奏楽、クイズ研究

局Ⅱ図書、放送

### ボイスボックスの利用方法

- ①ボイスボックスセンター番号「(058)-267-5161」
- ②岐阜高校ボックス番号「058-254-9256」+「#」
- ③暗証番号「1234」+「#」
- ④再生 「2」+「#」

URL <http://school.gifu-net.ed.jp/gifu-hs/> ※保護者のページを新設しました

E-mail [c27301@gifu-net.ed.jp](mailto:c27301@gifu-net.ed.jp)

第86号

# 高岐高だより

平成19年3月1日  
岐阜県立岐阜高等学校  
PTA会長 木方 伸一郎

印刷／株式会社ダイキョー  
題字／毛利 慶子

## CONTENTS

- 卒業を迎えて
- 卒業生の皆さんへ
- 卒業生によせて
- 卒業を祝して～ニンゲンへの回帰
- 3カ年皆勤者
- 同窓会幹事
- 3年間の想い出
- 夢に向かって第一歩
- 新しい時代の岐阜高校を
- 「太陽の日」の感想
- 「白杖園」を訪問して
- 平成19年度コース登録の結果
- 部活動だより
- 岐阜県民栄誉賞受賞

- 学 校 長 ……p1
- P T A 会 長 ……p2
- 3年学年委員長・副委員長
- 3年学年主任 ……p3
- 3年学年会
- 3年学年会
- 3年学年会
- 進路指導部 ……p4
- 校舎建築実行委員会 ……p6
- 生活委員長・生徒会副会長 ……p7
- 生徒会書記・家庭クラブ
- 教 務 部
- 特 別 活 動 部 ……p8
- 音 楽 部



▲応援団 センター試験激励会

※音楽部は平成十七年、十八年と二年連続して全日本合唱コンクール全国大会で金賞を受賞した。ことに十八年は文部科学大臣賞も併せて受賞し、岐阜県からも県民栄誉賞を贈られた。

岐阜高校同窓会総会では平成十九年度も昨年度に引き続き岐阜高校音楽部の歌声を卒業生に楽しんでもらうことにした。

併せて、音楽部顧問の中村美代子先生に音楽や、部活動に寄せる思いを寄稿していただいた。

## 熱く魂をゆさぶる

### 音楽をめざして

中村 美代子

平成19年度の岐阜高等学校同窓会が、多数の会員の皆様方の出席を得て盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。

また貴重な時間をいただき

演奏させていただきまことに、光栄に存じますとともに、厚くお礼申し上げます。

西暦2000年記念として同窓会より寄贈していただきましたグランドピアノは、多くの岐高生から愛されています。音楽部だけでなく授業或いは休み時間にこのピアノに触れ、音楽を奏でる生徒が後を絶ちません。それは、岐高祭でのプロムナードコンサートの盛況ぶりからも窺い知ることが出来ます。音楽部はこのピアノの音色に身を委ね音楽を紡ぎ出すとき、大きな喜びを感じるのと同時に、感謝の気持ちでいっぱいになります。

音と音が完全に溶けあったとき、宇宙のような広がりをもちます。さらにことばを歌い、一瞬にして消えてしまう音に美を求め、永遠に頭と体とところに美が宿るのを願い音楽を追究することは、大きな喜びとなります。それはさらに生きていく上で大きな力となります。私はその感動を生徒と、聴いていただく方と

共有したいと常に思っています。

音楽部の活動の柱の一つには、全日本合唱コンクールへの出場があり、全国大会を目標に毎日練習を続けています。これまでに全国大会への出場経験は七回あり、そのうち、金賞を六回受賞しました。昨年の第五十九回全日本合唱コンクール全国大会では、「金賞」及び二度目の「文部科学大臣奨励賞」を受賞することができ、またその成績から二回目の栄えある「岐阜県民栄誉賞」を受賞することができました。

コンクール出場以外の活動として、県内外の小中学校・老人ホーム等への訪問演奏や、毎年三月に県民ふれあい会館サラマンカホールで行う音楽部の演奏会があります。それらの活動を通し、いつも私たちを周りから支え

てくださる方々の温かい想いを実感するとともに感謝の念に堪えません。私たちはこれからも「熱く魂をゆさぶる音楽」を目指し、常に謙虚で真

摯さを忘れずに音楽と向き合い、歩み続けていく所存です。今後とも変わらず、温かく見守って頂きますようお願いいたします。



第59回全日本合唱コンクール全国大会に出場した岐阜高校音楽部



平成19年度大学合格者数（浪人含）

大 学 名	合格者数	大 学 名	合格者数	大 学 名	合格者数	大 学 名	合格者数
北海道大	3	兵庫教育大	1	芝浦工大	2	朝日大	1
北教大旭川校	1	奈良教育大	1	上智大	5	岐阜経大	1
弘前大	2	奈良女子大	4	昭和大	1	岐阜聖徳学園大	6
東北大	1	鳥取大	2	女子美大	1	愛知大	6
筑波大	5	岡山大	2	成蹊大	1	愛知医大	3
千葉大	3	広島大	6	成城大	2	愛知学院大	13
お茶の水女子大	2	徳島大	1	創価大	2	愛知淑徳大	4
東京大	11	愛媛大	4	中央大	30	金城学院大	3
東京外大	1	鹿児島大	1	津田塾大	4	豊田工大	6
東京工業大	2	高崎経大	1	東海大	4	名古屋外大	2
東京農工大	2	首都大東京	3	東京医大	1	名古屋造形芸大	1
一橋大	11	横浜市立大	2	東京工科大	1	南山大	79
横浜国立大	8	岐阜薬大	7	東京女子大	2	日本福祉大	1
新潟大	1	名古屋市立大	12	東京農大	2	藤田保健衛生大	4
富山大	3	滋賀県立大	2	東京薬大	1	名城大	36
金沢大	4	京都府立医大	1	東京理大	50	日赤豊田看護大	1
福井大	5	大阪市立大	1	日本大	3	長浜バイオ大	1
信州大	1	大阪府立大	5	法政大	12	京都外大	1
岐阜大	32	神戸市外大	1	星薬大	1	京都女子大	3
静岡大	4	和歌山県立医大	1	武蔵野美大	1	京都薬大	3
浜松医大	3	自治医大	3	明治大	17	同志社大	67
愛知教育大	3	白鷗大	1	明治学院大	2	立命館大	103
名古屋大	52	青山学院大	2	明治薬大	1	龍谷大	1
名古屋工大	6	学習院大	4	立教大	9	大阪医大	1
三重大	1	北里大	1	立正大	1	大阪電気通信大	1
滋賀大	2	共立薬大	1	早稲田大	67	大阪薬大	1
京都大	18	慶応大	57	麻布大	2	関西大	9
大阪大	12	工学院大	1	神奈川大	1	近畿大	2
大阪外大	1	国際基督教大	3	金沢工大	3	関西学院大	6
神戸大	5	駒澤大	1	松本歯大	1		

# 平成十九年度総会出席者名簿

## ●来賓

岐阜県知事

古田 肇

岐阜市長

細江 茂光

各務原市長

森 真

海津市長

松永 清彦

藍水くらぶ会長

村瀬喜代子

在京同窓会会長

宮本悠美子

岐阜高校校長

田村 弘司

## 恩師

沢田助太郎

高井 廣和

吉田 豊

富成 侑彦

近松 隆夫

昭和18年卒

高井 廣和

昭和19年卒

安部 源平

井戸 豊彦

加納宏一郎

栗野 道男

小瀬 洋喜

高賀 登

高橋 定一

富成 侑彦

服部準之助

松尾 正寿

真野 哲(小笠原)

吉田 豊

杉山 幹夫

高木 嘉昌

高橋 重郎

谷口 和男

寺町 一敏

林 慶一

福田 瓏

安井 孝(佐曾利)

昭和22年卒

山本 修

昭和23年卒

関谷 崇夫

近松 隆夫

昭和24年卒

村橋 敏博

昭和20年卒

伊藤 良治

川島 恒夫

小森 弘

榊原 和彦

清水 二郎

昭和26年卒

米山 宣子

昭和27年卒

木下清二郎

昭和7年卒

安藤 みち(河合)

沢田 和美(玉井)

高木 あい(郷)

昭和13年卒

山田 一枝

国島 忠雄

昭和28年卒

大野 因子

加納 久子

神谷 重平(平光)

小林 元一

松山美恵子(江川)

昭和29年卒

木村 和代(海野)

熊崎 明世(武山)

清水 外治

杉山 昌弘

高橋 笑子(若林)

堀 孝子

安江 紀子(三輪)

山田 央子(国島)

昭和30年卒

井戸 珍拾湖

岡田 直美(堀)

河尻比佐子(国枝)

桑原 由忠

後藤 澄子(葛西)

後藤 康彦

佐藤 孝一

志知 毅

杉すみ子(和田)

大宝 俊明

多和田弘子

長房香代子(早瀬)

錦見 純三(川柳)

布目 絢子(宇野)

平松 勇二

松岡 憲郎

真野なを子(横山直子)

森 明美(大洞)

金武 篤

金武 恭

河田由美子(白木)

河村 郁雄

木下 圭司

黒田 宏子

桑野 道子(田中)

額瀬 勝美

河野満子(野坂)

神戸 厚

神山 公一

後藤 充之

近藤 博通

清水 做子(山本)

下條 純子(高橋)

瀬古 芳雄

高島 昭夫

辻 正子(白須賀)

仲 弘智(永井)

中井 斌子(福富)

中村千恵子(入山)

沼倉 陽子(中村)

野々垣 孝

日比 幹夫

日比野久子(長屋)

福岡 雅子(塚本)

藤江 美子

藤野 幾子(安藤)

## ●会 員

昭和9年卒

坂井 熙

昭和13年卒

川島 毅(三削)

信田 義朗

昭和15年卒

翠 忠明

昭和17年卒

沢田助太郎

高橋 高志(広瀬)

信田 秀明

昭和22年卒

栗原 孝(佐曾利)

昭和22年卒

山本 修

昭和23年卒

関谷 崇夫

近松 隆夫

昭和16年卒

足立 美代(澤田)

柳原 潔子(山田)

昭和19年卒

園部 照子(羽田野)

昭和25年卒

後藤 悦男

服部 昌三

昭和26年卒

米山 宣子

昭和27年卒

木下清二郎

昭和7年卒

安藤 みち(河合)

沢田 和美(玉井)

昭和29年卒

木村 和代(海野)

熊崎 明世(武山)

昭和31年卒

相埜賢一郎

赤尾 艶子(沢田)

浅野 宗平

新井 一弘

飯田小枝子(堀川)

飯沼 清延

石井 玉子(石神)

伊藤 俊秀

生沼 道子(加藤)

梅村 宣子(葛西)

江崎 攝

塩谷 憲司

大内 雅博

小塩 敦子

加藤 公子

加藤 公子

加藤 公子

清水 做子(山本)

下條 純子(高橋)

瀬古 芳雄

高島 昭夫

辻 正子(白須賀)

仲 弘智(永井)

中井 斌子(福富)

中村千恵子(入山)

沼倉 陽子(中村)

野々垣 孝

日比 幹夫

日比野久子(長屋)

福岡 雅子(塚本)

藤江 美子

藤野 幾子(安藤)

堀 保枝(細川)	柳原 昌子(小野木)	鷺見 貴江(武藤)	昭和36年卒	森嶋 靖雄	桐井 犬三	田中 忠	村瀬 新一
前田 元久	関谷 晴美(三輪)	井口 篤郎	昭和36年卒	山田 大	桐山 宏之	寺島 次郎	毛利 俊夫
真崎 時紀	鳥沢 元子(篠田)	大野 道夫(田中)	昭和36年卒	葛谷 昌之	黒田 明	並河 鷹夫	森 裕
松島 清子(井田)	岩田 金治	中島 礼子(塗壁)	昭和39年卒	赤谷 信之	黒田 弘彦	丹羽耕太郎	森田登喜子(永井)
松波 善明	葛西 孝子	長瀬千代(實浅井)	昭和39年卒	足立 彬彦	兒玉乃美子(佐藤)	野口 耕司	山下 晃功
松原 武徳	片野 康彦	西澤 節子(坪井)	昭和39年卒	足立 彬彦	五島 徹夫	野口 常夫	山田 正弘
三浦 正人	金山 良典	新田 隆(阿部)	昭和39年卒	三井 道郎	後藤 靖夫	野田 常夫	山田 良造
水谷 晃三	加納美智子(横山)	服部 卓郎	昭和39年卒	井口 道郎	小林 宏	萩野 尚美(花村)	横森 勝彦
水野 武彦	後藤 節子(坪内)	藤井 孝一	昭和39年卒	一野 篤	小林 成禎	橋本 忠幸	横山 康子(則竹)
武藤 和子(堀江)	莊村多加志	森 真	昭和37年卒	市橋 信男	小松 孜汎	服部 浩一	
村瀬 上氏	高安 義英	山口 篤美	昭和37年卒	伊藤 雪子(水岡)	小森景一郎	早田 純(益子)	昭和40年卒
毛利千恵子(田中)	玉井 徹	山口浩之介	昭和37年卒	遠藤 伸子(大塚)	入山 正	佐藤 義之	石原 隆昌
山崎 道子(鈴木)	西澤 恭平	尾関 良平	昭和37年卒	尾関 良平	岩田 則康	澤田 重樹	岩井 弘栄
山田 徳男	松久 弘子(武井)	寺島 健	昭和37年卒	塩谷 弘文	沢田 紀子(高屋)	平工 雄司	岩田 健展
山本 英子(中村)	吉村英太郎	古谷 葉子(寺川)	昭和37年卒	大野 宏	沢田 清子(羽山)	広瀬勇一郎(河合)	上野 允久
山本 貞之(葛谷)	安藤 誠彦	三和美美男	昭和37年卒	小木曾昌敏	篠田 征治	深尾 見子	遠藤 民雄
山本 洋子(馬淵)	石原 秀晴	大熊 晟夫	昭和37年卒	各務 明子(青木)	篠田 武司	堀田 忠和	岡島三恵子(松尾)
横山 和永(木村)	井川 博子(岡部)	各務 斉	昭和38年卒	梶 俊之	清水 節子(村木)	堀田 雄太郎	川嶋千恵子
吉村 絹子(後田)	伊藤 純代	角田美瑛子(栗本)	昭和38年卒	片桐 勇碩	下山 能子(高野)	堀部 廉	衣笠 宏允
渡辺 克彦	上野 紀男	小島 藤司	昭和38年卒	加藤 勝彦	杉下 総吉	堀野 民江(尾関)	後藤 郁夫
昭和32年卒	植松 光尋	小森利八郎	昭和38年卒	加納 忠行	杉山 哲重	牧野 隆幸	小林 靖夫
恩田 博宣(松波)	岡本 太一	篠田 薫(青木)	昭和38年卒	河合 順	杉山 雅博	牧村 隆幸	佐久間 崇
恩田 洋子	小川 弘	武内 章(小島)	昭和38年卒	河合 啓一	鈴木 進	松尾 栄一	柴田 丈夫
河村多美子(足立)	小野木 精	平塚 正之	昭和38年卒	河内 義幸	鈴木 孝芳	松永 清彦	白橋 孝臣
清水 勝	加藤 雅子	安田洋一郎	昭和38年卒	木内百合子(大植)	高田 幸和	水口 康彦	高橋 泰之
林 伸好	黒田 瑛子	山田 真	昭和38年卒	北川 豊晃	高安 孝至	水出 俊子(柳)	田口 修一
矢崎 俣子(河野)	小島 秀俊	杉江 博子(釜井久子)	昭和38年卒	鬼頭 善徳(松井)	竹中 安子(窪田)	武藤 瞳子(境)	所 直好

馬場 健三	吉田 啓子(宮木)	昭和44年卒	昭和三十九年卒	金子 優	竹ノ内貴美子(信田)	速水 悟	昭和50年卒
平光 孝司	河村 都(小野)	昭和49年卒	青木 昌久	加納 道久	辻 宏介	平光 敬和	伊井 和彦
福田 稔	昭和42年卒	浅野 勝三	足立雄一(牧村)	北村いずみ(久世)	辻 泰	平光 節夫	大倉 光弘
松山 英一	市川 治徳	昭和45年卒	足立 康二	木村 恭子(林)	寺町 吉見	広川 治	小栗 憲治
見田村勝信	小笠原文雄	大野 弘一	足立雄一郎	桐山 伸一	寺町 幸子(岩田)	藤吉 弘光	園部 利彦
森川 幸江(梅田)	岡本 和夫	松野 雅俊	荒川 賢一	国枝 幸徳	所 克仁	古川 謙二	松井 義親
森崎 義道	加藤啓二郎	昭和46年卒	井口 健	小林 正典	富岡 敦子(村山)	細江 英夫	松波 英寿
山田 謙一	後藤 三郎	昭和47年卒	石井 嘉子(山崎)	駒月 純	富田 和子(不破)	堀 聡郎	水野 勝仁
渡辺百合子(広瀬)	瀬川 和朗	大槻 俊夫	石田 充利	坂井 明	富田 雅之	水谷 健	村瀬登志彦
昭和41年卒	玉木 信久	木村 容子(天飼)	伊藤 泰洋	酒井 公孝	内木いづみ	水野由岐子(喜井)	昭和51年卒
石川 咲子(奥田)	中島 幸宣	坂田 文雄	岩崎 彌廣	桜井 雅人	中村 誠	水野 耕司	昭和51年卒
犬飼晋一郎	信田 朝次	鹿野 孝紀	岩田 一起	酒向 和子(堀)	長屋 健	道家 香子(仙石)	神谷真弓子(近藤)
岩砂 三平	細江 茂光	鷺見 博信	岩田 敬子(佐竹)	沢田 勝典	南谷 清司	三宅 雅之	昭和53年卒
江崎 雅康	箕浦 洋和	関谷 啓子(佐藤)	内田 恵子	志知 文子(杉野)	丹羽 章	宮田 敏光	伊神 清隆
片桐 昌子(佐藤)	米田 滋夫	早矢仕直彦(川並)	梅沢 敏郎	篠田 淳	丹羽 陽子(森山)	村松いづみ(山田)	香田 和宏
加藤 俊子(河野)	昭和43年卒	堀 英子	大下 節子(水谷)	柴田 明美(野村)	野口 純子(卵野)	森 泰統	吉田万里子
桐山 直泰	伊藤 壽	昭和47年卒	小川陽一郎	菅野 良司	野村 史郎	山口 浩史(山田)	吉田万里子
小石千代子(岩田)	岩間 憲三	昭和48年卒	小川 曾 浩	菅野 良司	橋詰 芳範	山田 郁朗	昭和54年卒
小島 幸子(西垣)	小川 順子(各務)	河村 富男	奥村 裕子(野々村)	杉山 功	長谷川好規	山田 克明	昭和54年卒
後藤 淳子(勝野)	形見 武男	松浦 陽司	小栗 雅裕	杉山 智子(森)	服部 正	山中 章	杉山 文康
後藤 真一	下野 正稔	若園 重雄	尾関美樹子(河合)	杉山 正裕(伊藤)	服部 敏	横幕 哲也	昭和56年卒
新美佐知子(渡辺)	杉山 恵子(五島)	昭和48年卒	恩田 一光	鈴木 周子(高橋)	服部三恵子(坂口)	吉田 達也	大野 裕
西尾 有生	鷺見 守昭	昭和48年卒	角谷 晴重	鷺見 義和	幅 俊人	若原 照司	奥田 勝彦
古田 肇	瀬川 順子	小森 芳郎	影山 聡	瀬古 賢二	馬場 祐子(高橋)	若宮 広和	都築 良則
水谷 邦照	高井 直樹	杉山 保幸	加藤 達雄	仙田 真弘	早川 弘信	渡辺 安秀	昭和57年卒
宮崎 幸雄	日比野広子(坂田)	細江由喜子(養島)	加藤 美稲	高井 勝由	林 正俊		昭和57年卒
横山 仁美(伊藤)	山田 貴明		田口 功	田口 功	林 弥生		川瀬 幸彦

松岡 正人

草野 高志

林 幸代(新家)

昭和60年卒

昭和58年卒

熊田 貴彦

林 真奈美(古澤)

浦山 晶子(永井)

大塚 茂記

額瀨 真弓(三輪)

原 祥子(伊藤)

後藤誠一郎

服部 弘典

小阪 聡子(山田)

平野 優子(森木)

高橋 美幸(篠田)

渡辺 潤

小嶋 啓達

深尾 志麻(石原)

樋田 守律(小木曾真理)

昭和59年卒

小森絵里子

福島 伸江

渡辺 優子(角田)

朝居 義裕

佐々木伸子(定立)

藤垣 真司

昭和63年卒

井川江里子(平下)

塩谷 博英

古川竜太郎

後藤由香子

磯部 宏美(河村)

志水 美香(木村)

堀 浩人

平成元年卒

上田 義広

末松 弘臣

松岡 義人

柴田 安寛

宇野 敦己

鈴木 佳代(佐藤)

松原 充周

田中 良和

梅田恭内子(奥村)

関谷 典子(馬場)

松原 史尚

棚橋 典広

江川 雄也

田内 和子(坂)

松本 宰治

広瀬 修

塩谷 美樹(河合)

高井 淳一

宮口 智恵(寺田)

森嶋 将隆

大野 瞳

高納 勝寿

三輪 知生

吉沢 賢

大野 秀和

高橋 浩子(岩井)

武藤 好則

大野 秀和

大場 浩子(成瀬)

竹田 伸幸(松長)

村上 栄司

平成2年卒

大和田順子(棚瀬)

田中 由貴(加藤)

村田 純子

西澤 征平

奥村 中

筑間 康雄

森 将勝

平成4年卒

雄山 瑞栄

樋田 幸浩

守屋 利花

水谷直有企

加藤 叔美(早川)

中尾 勝

横井 繁忠

吉田 公司

可児 成章

長瀬 薫里(山田)

若山 茂樹

若園ちとせ(真野)

金光 幸秀

名越 信成

若山 茂樹

渡辺 昭生

河尻香代子(赤地)

成瀬 幸子(澤井)

渡辺 昭生

渡部 光朗

川瀬 晶子

野田 一江(宮嶋)

渡部 光朗

木原 克美

長谷川 公(安藤)

長谷川 公(安藤)

# 平成19年度岐阜高校同窓会運営委員会委員名簿

※事務局長 ◎部長

事務局＝医療法人社団慈朋会 澤田病院内図書室

(岐阜市野一色7丁目2番5号)

担当部門	卒年	氏名				
運営委員長	39年	澤田 重樹				
運営副委員長	49年	杉山 正裕				
	59年	松原 史尚				
事務局	39年	※西村 晴夫	市橋 信男	伊藤 雪子	岩田 則康	黒田 明
		小森景一郎	高田 幸和	田中 忠		
総務部	39年	◎岩田 則康	片桐 勇碩	鬼頭 善徳	黒田 弘彦	高田 幸和
	49年	◎影山 聡	遠藤 宏治	今井 正人	小森 保直	
	59年	◎福島 伸江				
財務部	39年	◎市橋 信男	後藤 靖夫			
	49年	◎坂井 明	若原 照司	野村 史郎	杉本 尚子	
	59年	◎関谷 典子				
広告部	39年	◎岩田 則康	◎伊藤 雪子	赤谷 信之	足立 彬彦	市橋 信男
		伊藤 文雄	片桐 勇碩	河合 順	国枝 正幹	後藤 靖夫
		小森景一郎	高田 幸和	田中 忠	寺島 次郎	
	49年	◎水谷 健	辻 宏介	小栗 雅裕	林 洋司	伊藤 泰洋
		木村 敏男	仙田 真弘	青木 昌久	菅野 良司	金子 優
		小林 正典	加納 道久			
	59年	◎古川竜太郎	朝居 義裕			
動員部	39年	◎黒田 明	黒田 弘彦	後藤 靖夫	富田 敬久	佐藤 義之
		平工 雄司	片桐 勇碩	寺島 次郎	杉山 雅博	河合 順
		各務 明子	兒玉乃美子	小森景一郎	山田 正弘	鬼頭 善徳
		河合 啓一	清水 節子	小木曾昌敏	梶 俊之	赤谷 信之
	49年	◎櫻井 雅人	◎中村 誠	周戸 雅彦	林 正俊	桐山 伸一
		江崎 公二	山田 利治	瀬古 賢二	沢田 勝典	平光 節夫
		三宅 雅之	長谷川好規	早川 弘信	田中 彰	森嶋 弘恵
		山中 章	辻 泰	杉山 功	吉田 達也	内木いづみ
59年	◎成瀬 幸子	野田 一江	鈴木 佳代	若園ちとせ		
会報部	39年	◎田中 忠	各務 明子	兒玉乃美子	小森景一郎	篠田 清子
	49年	◎酒向 和子	馬場 祐子	竹之内貴美子	柴田 明美	南谷 清司
		篠田 淳子	富岡 敦子	国枝 幸徳	荒川 賢一	
	59年	◎松本 幸治	苅谷みどり	河尻香代子		
会場部	39年	◎黒田 弘彦	赤谷 信之	伊藤 雪子	小木曾昌敏	黒田 明
		兒玉乃美子	篠田 清子	清水 節子	寺島 次郎	武藤 暁子
	49年	◎岩崎 弥広	横幕 哲也	所 克仁	浅野 勝三	山口 浩史
		寺町 吉見	加藤 達雄	山田 克明	森 泰統	小川陽一郎
		古川 謙二	岡本 満	服部 正	野原 健正	新家 昭宏
		各務 正洋	林 宏一郎	角谷 晴重	足立 康二	長屋 健
		寺島 礼子	坂井 公孝			
59年	◎塩谷 博美	上田 義広	宇野 敦巳			

## 御 礼

平成19年度岐阜高等学校同窓会総会の開催に伴う会報発行に際して、多くの皆様から広告の協賛や運営資金、資材のご協賛を賜りました。厚く御礼申し上げます。

協賛広告のご紹介の順序は、会報構成の都合で順不同とさせていただきますました。ご了解いただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

また、会報づくりに対しましても、忙しい中、恩師や卒業生の皆様から、心のこもった原稿を寄せていただきました。スタッフ一同、感謝いたしております。依頼、返答、出稿、問い合わせといった編集作業を通じて交流できたこと、さまざまな内容の寄稿文から刺激が得られたことなど、望外の喜びでした。ありがとうございます。

編集作業を進めるに際しては、総会運営に新しい息吹を吹き込もうとされた前年度の方針を尊重しました。体裁も踏襲しました。

次年度の総会開催準備は間もなく始まりますが、独自のプランと方針を掲げ、楽しみながら作業を進めてください。皆様のご健康とご発展をお祈りします。

平成19年度岐阜高等学校同窓会総会  
運営委員会（澤田重樹委員長）

委員 一同



県庁正面玄関ホールに設置

## 岐阜県民の歌

- 一、みどりをそめて 朝の日は  
高い梢に ゆれている  
嶺から嶺へ 小鳥もよんで  
岐阜は木の国 山の国  
伸びる希望を うたおうよ
- 二、つづく平野の 雲遠く  
虹の七いろ もえている  
村から街へ 生気に映えて  
岐阜は野の国 幸の国  
力むすんで はげもうよ
- 三、名所史蹟に 風かおり  
花ももみじも 鶉かがりも  
かがやく文化に 色そえながら  
岐阜は詩の国 水の国  
はずむ心で 進もうよ